



JUZA UNNO & JAPANESE SCIENCE FICTION

# 海野十三七 日本SF

in 徳島

2026  
4.18 sat - 6.28 sun

【開館時間】9:30~17:00 【休館日】月曜日(ただし5月4日は開館)

【主催】徳島県立文学書道館【特別協力】世田谷文学館【後援】徳島新聞社、四国放送、NHK徳島放送局

【観覧料】一般 520(410)円/高校・大学生 360(290)円/小・中学生 260(200)円

( )内は20人以上の団体割引料金。小・中・高校生は土・日・祝日は無料。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

画: 飯塚裕児【海野十三「地球人最後の冒険」(1948年 高志書房)装面より】

言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

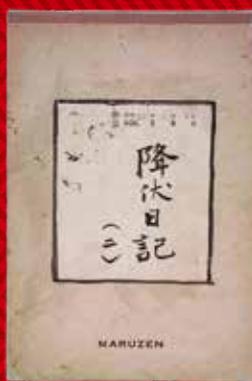




『超人X号』光文社 1949年  
装幀:小松崎茂



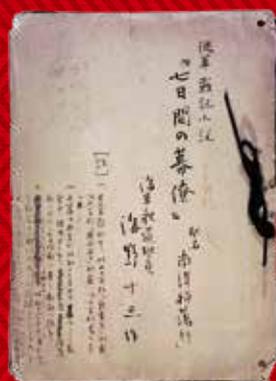
『地球盗難』ホブラ社 1954年  
カバー絵:伊藤幾久造



『降伏日記(二)』1946年



『空襲都日記』1945年



従軍戦記小説「七日間の幕僚」ゲラ・原稿  
「南緯掃蕩行」として『新青年』第24巻  
第2号(1943年2月)に掲載



作家インタビューのこころ

コーナーも設けます。  
関わりにスポットを当てた  
海野十三と徳島との  
豊田有恒らの仕事など、  
幅広く紹介しながら、  
小松左京、筒井康隆、  
手塚治虫、星新一、  
影響を色濃く受けた  
小栗虫太郎との友情、

「地球盗難」とは、今のところ  
科学小説の題名でしかありません。  
がしかしデス、未来の世に  
「地球盗難」事件が起らないとは  
誰が保証できましようか？  
(『地球盗難』より)

〈日本SFの父〉とも呼ばれる海野十三(1897~1949)は戦前から戦後にかけて数々の空想科学小説を書き、絶大な人気を博しました。手塚治虫や小松左京ら、後にSF第一世代となる作家たちは、子ども時代はみな海野の愛読者でした。真空管の開発に携わる科学技術者だった海野は1928年、「電気風呂の怪死事件」でデビュー。異色の探偵作家として知られるようになります。以後、少年向けの科学冒険小説ジャンルを開拓しつつ、ロボットやロケット、人工臓器、地球外生命、宇宙戦争、タイムトラベルなど多様なテーマを豊かな想像力と科学者としての知見に基づくりアルな筆致で描き出していきました。

2025年に世田谷文学館で好評を博した「海野十三と日本SF」展を、海野の出身地である徳島でも開催します。日本SF黎明期における海野の位置、戦争体験、海野と同じく世田谷に住んだ横溝正史、



画:村上松次郎  
『海野十三「火星探検」  
(1946年 開明社)口絵より』

# JIJZA UNNO & JAPANESE SCIENCE FICTION

## 【関連イベント】

講演会「海野十三から始まる日本SFの100年」申込締切:4月19日(日)  
大森望(SF翻訳家、書評家) 5月10日(日) 14:00~15:30

映画上映会「鍵から抜け出した女」申込締切:5月10日(日)  
(監督:高階匠、原案:海野十三)

トーク「海野十三研究のための基礎知識」申込締切:5月3日(日)  
小西昌幸(『海野十三の会』役員、北島町立図書館・創世ホール元館長) 5月24日(日) 14:00~15:30

5月31日(日) 14:00~ ▶監督・主演キャストによる舞台挨拶  
14:20~ ▶映画上映(15:50終演予定)

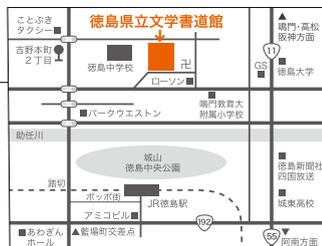
【申込方法】はがき・FAX・メールのいずれかに、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、イベント名をご記入の上、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。

## 徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1 TEL.088-625-7485 FAX.088-625-7540 <https://www.bungakushodo.jp> kotonoha@bungakushodo.jp

### 【交通アクセス(徳島駅から)】

- 徒歩:約15分 JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。  
[徳島バス]15番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。
- タクシー・自動車:約5分 国道192号線、藍場町交差点を北進。
- 駐車場:当館北側・南側にあります(62台、大型バス2台)。



グラフィック・会場デザイン:中島文彦